

2020 年 4 月 27 日

## 2019 年度 総合文化研究所研究助成報告書

研究の種類 ※該当する ( ) に ○を付ける	・共同研究 ( )      ・個人研究 (○)	
研究代表者 (所属・職・氏名)	国際学部・教授・石井久生	
研究課題名	アメリカ西部にバスク人が生産したエスニック景観の再現に関する地理学的研究——ネヴァダ州エルコの事例	
研究分担者氏名	所属・職	役割分担
なし		
研究期間	2019 年 4 月 1 日 ～ 2020 年 3 月 31 日	

### 研究実績の概要 (1)

本研究は、19 世紀末から 20 世紀半ばにかけてヨーロッパからアメリカ西部に移住したバスク人が、かつて各地の都市に生産したエスニック景観を再現することを目的としている。具体的研究対象地域として、ネヴァダ州エルコを採用した。エルコは、かつての開拓移民が西海岸のカリフォルニアへ移動する際に利用したカリフォルニア・トレイルの途中につくられた中継基地で、19 世紀後半に北アメリカ大陸西部各地に入植したバスク系羊飼いや、長距離移牧ルートの中継地として利用した。セントラル・パシフィック鉄道が開通した 1869 年以降、鉱山開発を目的とした人々の居住が本格化した。1900 年時点でも人口はわずか 849 人であった。20 世紀にはいると鉱山開発の進展にともない人口増加も本格化し、鉄道駅周辺に中心市街地が形成された。バスク人がエルコに本格的に進出するようになったのは 1900 年代である。ここに入植したバスク人は、鉄道駅周辺に多数のバスクホテルやバスクレストランを建設し、エスニック・ビジネスを展開した。バスク人のエスニック・ビジネスの主な顧客は、故地バスク地方から鉱山労働や牧羊業に従事するために短期移住した同胞であった。こうした状況下で、バスク人がエルコを舞台にこの当時生産したエスニック景観を復元することが、本研究の最重要課題である。

研究代表者である石井は、これまでもアメリカ合衆国西部のボイジーやベーカースフィールドを事例に、20 世紀初期にバスク人がそこに生産したエスニック景観を再現してきた。その際、当時の地図や住所録をデータとして景観を再現する手法を採用した。エルコの場合も、同様の手法でエスニック景観の再現を目指す。エルコの場合にこれまでと異なるのは、当時を知る移民第一世代が多数存命していることである。彼らに対して聞き取り調査を実施することで資料を補強すれば、従来よりも再現性の高い研究成果を得ることが可能である。以下、調査の途中経過と今後取り組まなければならない課題を、簡潔にまとめる。

## 研究実績の概要（2）

データ収集のための現地調査は、2019年10月17日（木）から2019年10月24日（木）にかけて8日間（移動時間を除き実質6日間）実施した。事前にグレートベースン大学のGretchen Skivington教授、リノ大学のJoxe Mallea-Olaetxe、エルコの在野研究者でバスク系移民第一世代のJess Lopategui氏らと連絡を取りつつ立案した計画にしたがって調査を実行した。

この調査で入手を目指した最も重要なデータは、当時の地図と住民属性（住所など）であった。古地図については、サンボーン火災保険会社発行の市街図が連邦議会図書館のデジタルアーカイブでも公開されているが、エルコのデータは完全なものではなく、特に1920～1930年代の地図が欠如していた。そのため、それらの入手を目指したが、エルコ市のNorth Western Nevada Museumが所蔵していたため、デジタル化して入手した。これにより、当時のバスクホテルやバスクレストランなどを地図上で再現することが可能になった。

困難を極めたのが住民属性データの入手であった。これまでの研究では、市内在住バスク人の属性を確認するために、R. L. Polk and Co. 社の住所録を利用していたが、20世紀前半のエルコの同社の住所録は出版されていない。そのため、他の住所録で代替できるか調査を試み、エルコ州立図書館や前出の博物館の資料をあたったが、使用に耐えうる当時の住所録は存在しなかった。別の資料で代替しなければならなくなったが、エルコの在野研究者Jess Lopategui氏が、土地登記記録で代替可能であるとの情報を寄せてくれた。土地登記記録は、エルコ郡庁舎に保管されていた。Lopategui氏とともに郡庁舎で登記記録を閲覧したが、20世紀前半の記録はデジタル化されておらず、50冊をはるかに超える登記簿に当らなければならないため、短期間の調査で情報を抽出することは不可能であった。しかし、Lopategui氏がこれまでにメモしたバスク人の登記記録を研究資料として提供としてくれることになり、この問題は解決した。

土地登記記録以外にもUS Census Bureauが10年ごとに実施する国勢調査データが利用可能であることが判明した。1900年から1930年までのエルコ住民の国勢調査記録原本を入手し、その中からバスク人のデータを抽出することで、住民属性をデータ化することが可能になった。

こうして入手したデータを分析して2020年11月までに論文としてまとめる作業が、現在進行中である。現在進行中の作業をまとめると、次のとおりである。

- ・ 研究費で入手したGISソフトArc GISを活用して、現在の市街図GISデータをベースに20世紀初期のエルコの市街図GISデータをいくつかの年代で作成する。
- ・ 土地登記記録および国勢調査データから当時のバスク人の属性を抽出し、それをGISデータとリンクさせることで、GISデータベースを作成する。

それらの作業が終了したのち、GISデータベースを地図化することで、当時のバスク人のエスニック景観を再現するという最終作業に取り掛かり、論文としてまとめる。論文は、総合文化研究所紀要に投稿する。

予算は、現地調査のほか、GISソフトウェアArc GISの購入、図書資料の購入、現地での文献複写に利用した。

研究発表(印刷中も含む)雑誌および図書

現在、総合文化研究所紀要への掲載に向けて論文執筆中。

以上